

さる十月二日に出されたい ような編集会議において、  
わゆる「十・三・五氏連携説」の勢力が無意味であると文  
文に闇して、「私は次の理由には、二日の総会における  
より白紙撤回する。」

一、学会内部における当時の  
状況から判断して、主觀的かつ  
客觀的にその妥当性が欠如して  
いた。

なぜなら、当日の総会は、そ  
の前日からの連続審議であり、  
事実、時間切れで中断止むなき  
に至った山口・河野両学会員の  
議論が最も早決型といつ段階では  
思われなかつたからである。

さらに、偏向、定款違反問題  
が、これまでの編集会議及び總  
会などにおいて問題となつたこ  
とがなく、唯一、二日の終の  
席上で、金城美会員の「今的新  
聞は偏向している」との発言が  
なされたのみで、その時に至る  
までは問題とされてこなかつ  
た。そして、一部の人間が怒意  
的に偏向を企図するような体制  
も編集部においてはとられてい  
なかつた。

従つて、同決議文に見られる  
的に偏向を企図するような体制  
も編集部においてはとられてい  
なかつた。

一、まだ同決議文の發  
表される以前である。上  
かれている編集方針の箇  
ても定款にうつたててお  
る方針は否定するものでは  
ない。

### 十一・三決議

（二）総会において編集部の余り、自分の主体性を自ら封じられわれ五人の正當性を一方的に主張し、総会（自治）を放棄することが同決議に對して、私は、この問題として、あり、その總会決定は認めた。それで、それにもかかわらず、方針がそれを優越するものであると考へる。

（三）以降の總会運営は、混乱に対し強く責任を感じる。

（四）以上の総会に相まって、自治として有効性をもつものでないものの、十一月十九日（注）聞学会運営・発行業務に対する妨害であり、発行停止ないびに解消せられた。

（五）この問題は、私自身、その立場として全田の責任であることを認めた上で、自己批判をする。なお、今回に於ては、全く新聞学会編集部へ影響したと思われる。

（六）十三決議文は、と總会の決定を認め以上、他の四君は今回の事態の責任性を認め、從つて同の敵対であったことを認め、謙虚に自己批判をする。

（七）以上述べた理由からして、この事態の解決はわれわれの責任であるものである。

（八）私の責任の負えないものであることを率直に認め、從つて同の立場として、自分自身、編集部としての自治に対する内から取り組んでくれることを心から要望する。また、われわれ編集部としての自治に対する内から、これまでの編集会議などの討論の自殺行為ないし外からの被害行為が根柢風にいたる所において、自分の態度をあいまいにしてきたことは深く反省するものである。最後に、以上時期に来ていることを感じ、切にこれが出来るように立ち上げる方針を定めようとするべきことを誓む。

（九）この方針は、結果的に新編集方針の問題に關するものである。最も重要なのは、われわれ編集部としての自治に対する内から、これまでの編集会議などの討論の自殺行為ないし外からの被害行為が根柢風にいたる所において、自分の態度をあいまいにしてきたことは深く反省するものである。最後に、以上時期に来ていることを感じ、切にこれが出来るように立ち上げる方針を定めようとするべきことを誓む。

（十）この方針は、結果的に新編集方針の問題に關するものである。最も重要なのは、われわれ編集部としての自治に対する内から、これまでの編集会議などの討論の自殺行為ないし外からの被害行為が根柢風にいたる所において、自分の態度をあいまいにしてきたことは深く反省するものである。最後に、以上時期に来ていることを感じ、切にこれが出来るように立ち上げる方針を定めようとするべきことを誓む。

（十一）この方針は、結果的に新編集方針の問題に關するものである。最も重要なのは、われわれ編集部としての自治に対する内から、これまでの編集会議などの討論の自殺行為ないし外からの被害行為が根柢風にいたる所において、自分の態度をあいまいにしてきたことは深く反省するものである。最後に、以上時期に来ていることを感じ、切にこれが出来るように立ち上げる方針を定めようとするべきことを誓む。